

ESD地域ミーティングからの宣言・提言

全国各地のESD地域ミーティングから市民イニシアティブの宣言・提言ができました。

ESDいわてミーティング「復興とESD」

(主催 ESDいわてミーティング実行委員会、ESD学校教育研究会、後援ESDJ)

3月16日の盛岡の岩手大学のESDいわてミーティング「復興とESD」(主催 ESDいわてミーティング実行委員会、ESD学校教育研究会)は大雪の中に行われました。

ESDいわてミーティング「復興とESD」は、国連「持続可能な開発のための教育の10年」の総括年の今年に各地で行うESD地域ミーティングのひとつであり、復興をテーマとして下記の趣旨で行われた。

(翌日の岩手日報に掲載されました。)

東日本大震災でつらいことがたくさん起こった「が、そこに現れたのは、たくましく成長していく子どもたちの姿でした。ここにも持続可能な未来を作っていく教育のヒントがあるのではないかと考え、震災後、子どもたちや若者を支援し続けて来た方々にお集りいただき、そのエッセンスを話し合う中から、私たち大人が今後子どもたちと一緒に考えるべきことについて学んでいきたいと思います。」



スピーチでは、岩手県立大槌高等学校用務・山田町船越小学校元PTA会長が黒澤克行氏が避難所運営と困難の中での小学校再建について、特定非営利活動法人 遠野まごころネット理事長多田一彦氏は官に頼らない市民の震災支援と経済復興について、特定非営利活動法人三陸産業復興支援代表理事高橋辰昇氏は鮮魚店として行った復興支援とこどもの復興について、国道45号線に笑顔を届け隊隊長佐々木雷蔵氏は仕事をしながら行った震災支援と学生たちと行う復興について、特定非営利活動法人 ぐらしのサポーターズ副理事長吉田直美氏は支援として相談、復興としてのとお金だけに頼らない持続可能な地域づくりについて語った。

「ESD・コーディネーター」では認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）理事・ESD学校教育研究会の長岡素彦がESDとESDコーディネーターについて述べた。



未来をつくるワークショップでは、全員で今後取り組んでいきたいこと、それに対してどんなサポートについて論議して、これからの社会をどうしたらいいか、地域をつなぐにはなどを検討した。

その結果、復興とESDについての3つの提案ができた。

・自然の恵みをいかし、地域の知恵によるホヤなどの海産物のブランディングで持続可能な経済づくりをすすめる

- ・地域で学校を核にしたコミュニケーションをすすめる
- ・地域で話し合い・合意形成による小さな自治・持続可能な地域づくりをすすめる

さて、参加者から多くの声を頂き、スピーカーからも下記のコメントを頂きました。

「先日の「ESD」ESDとは、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動です。

例えば、持続不可能な社会の課題を知り、その原因と向き合う。それらを解決するためにできることを考え、実際に行動する。そのような経験を通じて、社会の一員としての認識や行動力が育まれていきます。

正に、それです！

今の思い（課題）を、若者に伝え（学習）、今後将来的にどうすればよいか（対策）、その為の行動（実践）をする。

その小さな活動が...地域社会を生かす（過疎からの脱却など）こと...

それが、小さな町でも皆が平等に生きていくことなのです。

(中略)

今の活動が、2年後、5年後に、正しいのかは疑問です。

「ESD」持続可能な開発のための教育とは、常に時代（情勢）を考え、時代ごとに形を変えることでもある...

それが10年後でも....それは当初の目的の為なのです！」

特定非営利活動法人三陸産業復興支援代表理事高橋辰昇氏

「今回このESDミーティングにお呼び頂いたので参加してみたが、あの時、避難所を運営する側にいて、また同時に小学校のPTA会長で学校の再建に奔走したことは当事者として行動したのだがそれをESDにどのように反映させればいいのかのだろうか。

ちょっとぐらいいはESDのためになったのだろうか。」

岩手県立大槌高等学校用務員 山田町船越小学校元PTA会長 黒澤克行氏

「そう。復興は今の若者たちの知恵とチカラで進めるものと思っています。

大人は、意見するより転ばない様に、踏み外さない様に見守り、導くのが役割だと思っています。」

国道45号線に笑顔を届け隊 隊長 佐々木雷蔵氏

最後に、ESDいわてミーティング実行委員会の梶原さんの言葉を引用します。

「知識はどのように使うか、その学びが今の社会や学校教育の中ではあまりなされていないように思います。

こどもたちやおとなが未来を描けないのは、その知識がどこでどのように使われるのかわからないからではないのかなと思います。

だけど、災害あとで学ぶことって、どのように使われるかがわかったあとで、知識や工夫がついてくる。

そして、未来を描くことができる。」

岩手大学教育学部准教授・ESD学校教育研究会 梶原昌五氏

これらは全国各の地域ミーティングの結果とともに「ESD市民提言フォーラム」（6月21.22日・東京）に反映される。

ESD埼玉ミーティング

「これまでをふりかえり、これからを考えて、持続可能な未来をつくる」

(主催 ESD埼玉ミーティング実行委員会、持続可能な開発のための教育の10年さいたま他、後援ESDJ)

4月27日にさいたま市武蔵浦和コミュニティセンターでESD埼玉ミーティング「これまでをふりかえり、これからを考えて、持続可能な未来をつくる」(主催ESD埼玉ミーティング実行委員会、持続可能な開発のための教育の10年さいたま他、後援ESDJ)が行われた。



スピーチでは、「環境・まちづくり・市民活動の10年」として認定NPO法人生態工房理事長、NPO法人都市づくりNPOさいたま理事の安部邦昭氏から持続するためにはワーク・ライフ・バランスの重要性、「教育・まちづくり・震災支援の10年」として高校教諭、NPO法人チーム東松山代表理事の松本浩一氏からは広い意味での教育の重要性、「ふじみ野市の地域コーディネータ」としてつながりタイズの石子正明氏からふじみ野市域でのESDコーディネーター養成の成果が語られた。

「ESD学びで変える」としてESD-J 理事、持続可能な開発のための教育の10年さいたま代表の長岡素彦としてESDと県内の市民活動と震災支援について、「ESDコーディネーターとGAP」としてESD-J 理事森良氏からはESDコーディネーターとGAPについて説明した。



未来をつくるワークショップでは市民、NPO、さいたまNPOセンター、教員、県職員、自治体職員などの「マルチステークホルダー」で全員で今後取り組んでいきたいこと、それに対してどんなサポートについて論議して、これからの社会をどうしたらいいか、地域をつなぐにはなどを検討した。

その結果、ESDについての3つの提案ができた。

- ・地域での協働を新しい形ですすめる
- ・スローな仕事や生活、ワーク・ライフ・バランスからの持続可能な地域づくり
- ・ESD地域コーディネーターの県内でのさらなる展開

「地域と市民社会からのESD提言フォーラム」

(認定NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議 ESD-J)

6月21.22日、「地域と市民社会からのESD提言フォーラム」(認定NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議 ESD-J)が東京で開かれた。

国連ESDの10年の総括年にあたり、ESD-Jは今年の1月から「ESD地域ミーティング」の開催を各地に働きかけ、既に、埼玉も含め10地域で開催してきました。

また、ESD実践者やESD推進機関の方たちと、2015年以降に向けた提言のあり方について意見交換を行ってきました。

地域と市民社会からのESD提言フォーラムでは、これらの声をふまえ、ESDを担ってきた各主体のこの10年の経験をまとめ、2015年以降のESD推進の方向性を打ち出し、ESDにかかる多様なステークホルダーに向けた提言をとりまとめました。

1日目 21日



まず、ESD地域ミーティング(北海道/岩手/埼玉/多摩・稲城/北陸/愛媛/茨城/北九州/東海/宮城)の報告が行われた。

午前の論議をもとに提言テーマを抽出し、ワークショップを行い、提言テーマ別の発表が行われた。



ESD・教育の課題とそれを阻むものを深掘したワークショップを行い、提言テーマごとに発表した。



2日目 22日

今までのふりかえりを行った。

提言のコンセプトのワークショップを行い、提言テーマごとに発表した。



北海道から沖縄まで53人の地域、市民社会からのESDの担い手が東京・荒川・西日暮里に若い人、古参の人、ESD-Jの役員、省庁の人も、自治体の人も、企業の人も、大学・高校・小中の教師も教育委員会の人も学生も集まり、マルチステークホルダープロセスそのものでおこなわれました。

10年間の各地域での実践、経験に踏まえた未来を生み出す教育（ESD）をどうすすめ持続可能な地域・社会をつくるかの論議で下記の宣言・提言をつくり、それを以下の次のステップにつなぎます。

- 「ESD 市民イニシアティブ～市民によるESD 推進宣言」
http://www.esd-j.org/j/documents/esd_declaration_2014.pdf

- 「地域と市民社会からのESD市民提言」
http://www.esd-j.org/j/documents/esd_advocacy_2014.pd

ESD レポート

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。環境・経済・社会・平和など、私たちが暮らすさまざまな問題に取り組み、豊かで公正な未来を創造するための「価値観」と「スキル」を育む、未来創造型の学びです。「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が2005年からスタートし、世界各国で取り込まれています。

地球と社会のための“人づくり”応援マガジン

vol.34 2014年秋 2014年10月7日発行

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議



「ESDに関するユネスコ世界会議」関連イベントで これからのESDを語ろう



2015年からのESD

「国連ESDの10年」は2014年で終了しますが、2015年からは「ESDグローバル・アクション・プログラム」に沿って、引き続きESDが世界で推進されていくことが合意されています。11月に岡山と愛知で開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」はその大切な節目の場。世界のESD関係者が集まり、これまでの取り組みを振り返り、これからのESD展開に向けた議論を行います。

上の図で☆印がついているのは、ユネスコの公式イベントとして開催される会議ですが、ESD-Jははじめ多様なESD実践者が世界会議に向けて議論を重ね、その成果を宣言や提言等に

取りまとめ、それぞれに併催イベント等で発信していくとしています。

また、11月13日のフォローアップ会合(文部科学省主催)では、これらESD実践者が意見をもちより、マルチステークホルダーで、2015年以降の日本のESD推進について語り合う場になります。

ESDが新しいスタートを切る貴重なその場に、皆さんもぜひ一緒にください!

(★のついたESD-J主催/運営等のイベントの詳細は裏面でご案内します)